

No.

書

JICA

615

982

MCS

LIBRARY

25

15

10

メキシコ人口家族計画プロジェクト
計画打合せ調査団報告書

JICA LIBRARY



1052986[5]

1986年3月

国際協力事業団
医療協力部

国際協力事業団	
受入 月日 '86. 6. 26	615
登録No. 12811	98.2
	MCS

序 文

わが国のメキシコ共和国に対する人口家族計画プロジェクト協力は、1984年7月に締結されたR/D(討議々事録)に基づき開始され、現在に至っている。

今般、2年間(1984/1985)の協力の実施状況の把握及び年次計画策定のため本件計画打合せ調査団を派遣したものである。ここに本調査団の団員ならびに調査団の派遣にご協力いただいた関係各位に対し深甚なる謝意を表すると共に、今後の本件プロジェクトの実施・運営にあたり、一層のご協力をお願いする次第である。

1986年3月

国際協力事業団

理事 末 永 昌 介



国家人口審議会事務局 (CO-NAPO) との協議

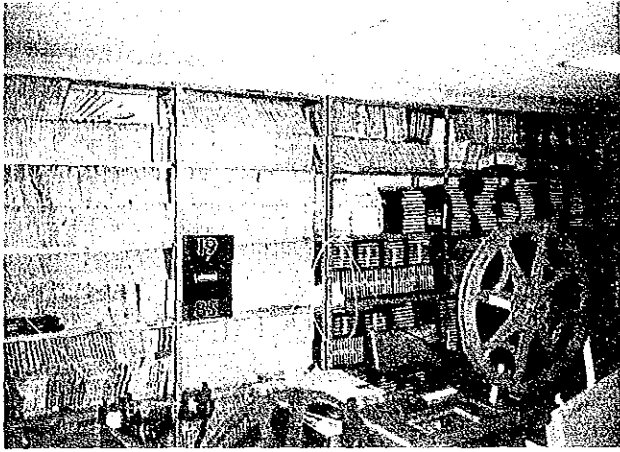
中央左：マルチネス総長



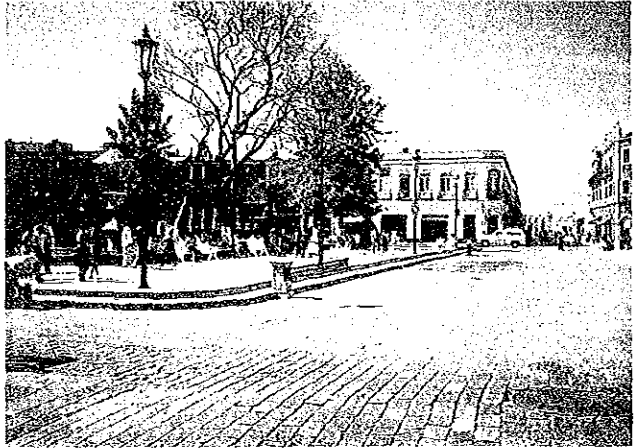
中央：小林団長
中央左：細野 JICA 事務所長



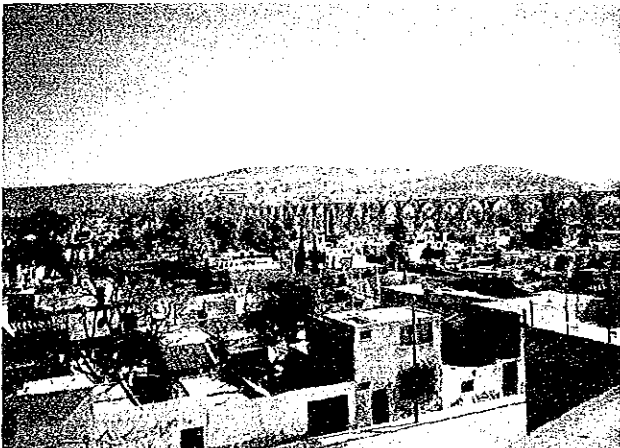
ミニッツ署名
右：小林団長
中：マルチネス総長
左：サーベドラ局長



視聴覚室
(貸出用テープ等)

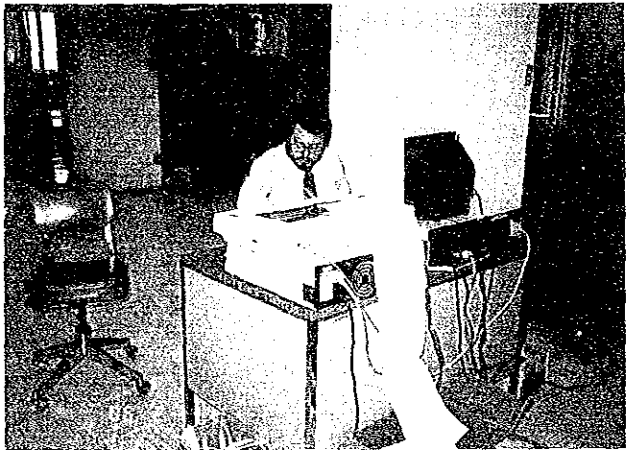


CONAPOの移転先に予定されているケレタロの町

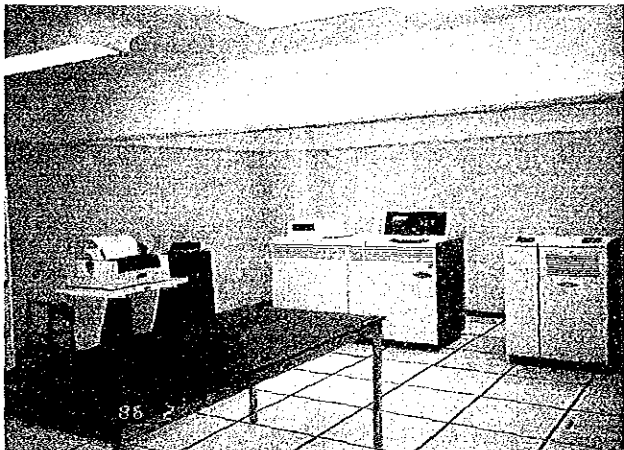




パーソナルコンピューター



コンピューター端末機



コンピューター室

目 次

I 調査団派遣の経緯と目的	1
II 調査団構成	2
III 調査日程	3
IV 調査報告	4
1. 人口データバンク及びコンピューター関係	4
(大友篤, 藤田峯三, 伊藤達也)	
2. 人口教育関係(小林和正, 高橋重郷)	7
3. 地方視察(小林和正, 伊藤達也, 高橋重郷)	15
4. 総括(小林和正)	18
V 添付資料	23
○ ミニッツ英文	25
○ ミニッツ西文	40

I 調査団派遣の経緯と目的

本件プロジェクトは、メキシコの人口問題解決の一環としてCONAPO(Consejo Nacional de Poblacion / 国家人口審議会)の実施する人口活動促進業務に対する協力要請を受け、1984年7月にR/Dを締結し協力が開始されたものである。第2年次の協力が終わるにあたり、プロジェクトの実施状況を把握するとともに、協力の実施に係る年次計画の策定等具体的事項につきCONAPOと打合せを行うため、本件調査団を派遣することとなったものである。

Ⅱ 調査団構成

- (1) 団 長 小 林 和 正（総括）
 日本大学人口研究所教授

- (2) 団 員 大 友 篤（人口統計）
 宇都宮大学教養部教授

- (3) 団 員 藤 田 峯 三（人口統計）
 総務庁統計局統計調査部労働力統計課長補佐

- (4) 団 員 伊 藤 達 也（人口統計）
 厚生省人口問題研究所人口資質部主任研究官

- (5) 団 員 高 橋 重 郷（人口教育）
 厚生省人口問題研究所人口資質部厚生技官

- (6) 団 員 成 田 明 敏（業務調整）
 国際協力事業団医療協力部医療協力特別業務室

Ⅲ 調査日程

日順	月 日	曜日	調 査 概 要
1	1月27日	月	東京発 JL-012 メキシコシティ着
	28日	火	10:00~11:30 JICA事務所との打合せ 12:00~14:00 国家人口審議会 (CONAPO) 表敬・打合せ 16:00~18:00 CONAPOとの協議
	29日	水	10:00~14:00 CONAPOとの協議 16:00~18:30 CONAPOとの協議 大友・藤田 19:30~21:30 JICA事務所との 団員メキシ 打合せ コンティ着
	30日	木	10:00~14:00 CONAPOとの協議 16:00~18:30 CONAPOとの協議 18:30~19:30 日本人専門家との打合せ
	31日	金	小林団長, 藤田, 伊藤, 高橋団員 大友・成田団員 メキシコシティ発 MX474カン 10:00~14:00 クーン着 ミニッツ作成 キンタナロー州ベントクワレ郡 16:00~20:30 人口審議会視察 "
	2月 1日	土	カンクーン→チェチュマルへ移動 資料整理 キンタナロー州人口審議会視察
	2日	日	チェチュマル発 AM450 メキシコシティ着 CONAPO 移転予定地 (ケレタロ市) 視察
	3日	月	10:00~14:30 ミニッツ作成 16:00~22:00 "
	4日	火	10:00~15:15 ミニッツ作成 18:00~18:45 ミニッツ署名
	5日	水	10:00~14:00 日本人専門家との 小林団長 打合せ メキシコシティ発
	6日	木	メキシコシティ発 JL-011
	7日	金	→ 東京着

Ⅳ 調査報告

1. 人口データバンク及びコンピュータ関係

(1) CONAPOの活動状況

1985年以降1986年1月末までにおけるCONAPOの活動状況は、つぎのとおりである。

- ① データバンクのConceptual Frame workを英文で作成した。
- ② 人口データベースのうち、基本的な人口データのS/38への入力前の準備は州レベルのものに関しては、すべて終了した。
- ③ ②に述べるデータの一部については、現在、S/38への入力作業に着手している。
- ④ 基本的な人口データのうち、municipio（郡）レベルのものについて、現在、入力のための準備作業をおこなっている。
- ⑤ INEGIから借りる予定の1980年人口センサス結果の磁気テープについては、地震による被害状況を検査していたが、特別集計を除いては、被害なしということが明らかになったが、そのコピー・テープの入手時期については、INEGIのコンピュータ・センターの機能がまだ完全に回復していないので、不明である。ただし、集計結果表なら直ぐにでも入手できるとのことであった。
- ⑥ 人口動態統計のコンピュータ化は、最近はじまったばかりであるので、テープの形でデータの入手は困難であることがわかったので、現在、municipio別の人口動態統計は、手で書き写している。
- ⑦ コンピュータ関係では、データバンクのシステム・デザインを検討した。とくに基本的な人口データの入力をおこなうにあたり、その入力プログラムの一般的な概念構成をつくりあげた。
- ⑧ 基本的な人口データの入力要員としては、現在2名を割当てており、さらに、端末装置の増設に見合せて、要員をふやしていく予定である。
- ⑨ 人口データベースの利用に関連して、1980年人口センサス結果をベースにした全国、州別将来人口推計を、INEGIと共同して実施した。
- ⑩ コンピュータ関係機器の導入については、1986年8月までに、S/38中央処理装置1台、同磁気ディスク装置1台、同プリンター1台、同ディスプレイ装置2台が導入され、人口データベースの作成に先立ち、政府の「不法出入国者サンプル調査」の集計やCONAPOの研修出席者名簿の作成などに使用した。

(2) 日本人専門家の活動状況

1985年以降1986年1月末までにおけるCONAPOの人口活動を援助するための

日本人専門家の活動状況は、つぎのとおりである。

- ① IBM S/38 のシステムの立ち上げをおこない、9月以降の稼動を可能ならしめた。
- ② IBM S/38 を使用するための研修を CONAPO 職員に対しておこなった。(その詳細については、山下専門家の業務報告を参照のこと。)
- ③ CONAPO におけるコンピュータ要員(オロスコ情報部長ほか)に対して、人口データのコンピュータへの入力システム、データ検索システムの開発のための技術指導を実施中である。
- ④ 人口データバンクの構築のための基本的な人口データ・ベースの作成に関して、その Flame work の設計、コーディング等についての技術指導をおこなった。
- ⑤ 人口データ・ベースを利用しての全国地域別将来人口推計のためのパソコン用ソフトウェアの開発・指導をおこなった。(その詳細については、別記1参照。)
- ⑥ 人口データ・ベースを利用しての各種の人口分析のためのパソコン用ソフトウェアの開発・指導をおこなった。
- ⑦ パソコン用に開発された人口分析のための統計分析(多変量解析)のソフトウェアを IBM S/38 用に改良したソフトウェアを作成した。

なお、上記のうち、①と②については、山下、福田、沢田の各専門家が担当し、③については、福田、沢田の各専門家が担当した。④については、松村、大友専門家が、⑤と⑥については、伊藤、高橋、松村の各専門家がそれぞれ担当。⑦については、沢田専門家が主として担当した。

(3) 1986年度の活動計画

1986年度の活動のために、R/D及び1985年minutesの活動計画の見直しを実施したが、それに先立ち、CONAPOにおける人口データバンク及び将来人口推計に関する事業予定について聴取した。その概要は、つぎのとおりである。

- ① 基本的な人口データ・ベースが整備された段階で、各種の人口分析や将来人口推計を実施したい。そのために、SSPS, Rapid, Futura など主としてパソコン用の各種人口分析、推計用のソフトウェアを集めている。日本でも、種々のものが開発されていると思うので、それらについてもできるだけ提供してほしい。
- ② CONAPOにおける人口分析担当部門は、いわば、研究機関のようなものであるため、種々の人口分析や将来人口推計をいろいろな角度から実施していきたい。そのために日本人専門家の協力をお願いしたい。とくに日本のソフトウェアを英文の形で入手したい。
- ③ コンピュータ関係については、とくにグラフィックとしての利用が、パソコンの場合には、多くなっているため、S/38についても、グラフィック機能を強化したい。また、CONAPOの活動のためのS/38用の各種パッケージを開発していきたいので、

そのための援助をしてほしい。

- ④ とくに将来人口推計を実施するにあたって、人口データに、種々の欠陥があるので、その補正の方法について検討していきたい。良い方法があれば、教えてほしい。

以上のような CONAPO 側の意向、及び R/D, 1985 年 Mincotes に基づき、1986 年の Munites の各計画の見直しを、CONAPO 側と共同しておこない、1986 年の Mincotes に示されたような形で、1986 年度以降の活動計画を策定した。その骨子は、つぎのとおりである。

- ① 基本的人口データ・ベースの作成を、Municipio レベルまで実施する。
- ② 新たに、1986 年から、各種の派生的推計（雇用、教育、衛生など）を実施するための、社会経済的人口データ・ベースの作成に着手することとし、コンピュータにを入力するための準備作業を実施する。そのため、この分野の日本人長期専門家 1 名を派遣する。
- ③ 前述のような CONAPO 側の意向に沿った研修を、日本において、CONAPO 職員に対して実施する。
- ④ CONAPO が集めたパソコン用の各種の分析用ソフトウェアを IBM S/38 用に改良・開発するための技術援助をおこなう。
- ⑤ S/38 用の各種システム開発のための指導、研修を、CONAPO のコンピュータ要員に対しておこなう。
- ⑥ 人口分析部門ばかりでなく、人口教育部門も含めて、人口分析のための多変量解析のアプリケーションの指導研修をおこなう。
- ⑦ ⑥の研修または指導をおこなうに先立って、主として人口教育部門の職員に対して、統計学の基礎研修を実施する。
- ⑧ 人口データの補正の方法の開発をおこなう。

(4) 地域別将来人口推計のためのパソコン用ソフトウェア

JICA が S-38 と同時に提供したワープロは、マイコンと同様な計算機能を持っている。また国連からマイコンが CONAPO に提供されている。このような状況のもとで、CONAPO は、データ・ベースを作成するとともに、各種の将来推計の最良の方法を選択するためにこれまで様々な推計方法および人口分析用のソフトを購入したり、FAO などの国際機関から提供をうけている。これまでに入手あるいは問い合わせしているものは以下の通りである。

- 1) ラピッド・プログラム、家族計画が人口にあたえる影響を分析することを目的としている。
- 2) リサーチ・トライアングル・インスティテュートより、マイクロ・コンピュータ用統

計パッケージを入手した。州別年齢別人口を推計するためのロジャース・モデルのほか、教育人口と雇用の推計プログラムを提供してもよいとの申し出を受けている。

3) フューチャー・グループより、教育人口を推計するパッケージを供与された。

4) FAOより、経済要因と人口、食料、雇用との関連を推計するカッパーを受け取っており、現在実用性を検討している。

5) ウェスチング・ハウス社に、アメリカ・センサス局が開発した人口分析用パッケージとマイコン用のパッケージについて問い合わせ中である。

これらのソフトの一部は既に現在マイコンで稼働している。

調査団は、これらのソフトが、データ・ベースを作成しているS-38でも稼働出来るかを検討するために、制約条件の付いていないソフトのマニュアルとプログラムのコピーをCONAPO側に要請したところ、快諾を得た。

コピー作業の大半は調査団がメキシコ滞在中に終了したが、残された部分についてはコピーが終了しだい日本側に提供されることになった。

CONAPOから提供された資料から、若干の修正をすることでS-38で稼働することがわかった。

調査団は、より簡単に操作できる地域人口推計および世帯数と労働力人口の推計のパッケージを提供するとともに、必要なデータを人口データ・バンクから編成入力する方法について日本人専門家が検討することにした。

2. 人口教育関係

(1) 経 過

今回の計画打合せ調査団による人口教育関係の報告を記す前に、1985年11月18日-12月2日に派遣された人口教育関係の阿藤誠(人口学)、坂井博通(統計学)両専門家による報告、ならびに、長期派遣専門家福田久明氏の報告(1985年12月16日)に基づいて、最近の経過を述べておきたい。

人口教育分野に関しては、すでに1985年5月より西岡八郎長期専門家が派遣されており、CONAPOのカウンターパートへの指導助言を行いつつ、プロジェクトの推進に努力している。同専門家が指導助言を行っているCONAPOの2つの調査がある。第1は人口教育のための基礎調査で、これについては、全州で実施予定であったのが、イタルゴ、ゲレロ2州で実施後中止となり、これにかわり、全国を8ブロックに区分し、同一の質問票を用いた基礎調査を実施する予定で、この分析枠組みの設定にあたって西岡専門家の協力が得られている。今後の調査における標本設計、調査項目の設定、調査票の設計等に当たっても同専門家が協力して行くことになっている。

第2は農村におけるパイロット調査と呼ばれるもので、CONAPOは当初グレロ州チチワルコおよびモレロス州アトラトラワカンを選定し、調査を開始したが中断となった。しかし、後者の地域で得られた世帯調査の結果については、今後データをコード化し、コンピュータに入力し、集計解析することが考えられ、それについても西岡専門家の協力が望まれている。このパイロット調査に関して、CONAPOは新しい実施地域としてトラスカラ州を選定し、二次資料による分析を終えているという。この調査実施に関する暫定計画の早急な作成の必要性を日本側、CONAPOの側双方とも確認した。CONAPO側は、その具体的調査内容として、家庭生活、とくに結婚と出産に関する項目にしぼること、調査票使用の社会学的調査にすること、2つのロカリタードを選び、人口教育実施の有無による住民意識の変化の差異を比較分析すること、などを考えている旨を伝えている。

なお、このほかにも、CONAPOによる北部4州における女性の地位と役割に関する実態と意識の調査に対し、その調査の企画、設計、調査票のデザイン、標本抽出の方法、標本誤差等に関して、西岡専門家はCONAPOに指導協力を行っている。

坂井専門家は、1985年11月にCONAPOのスタッフで統計学の基本(記述統計学)を習得している人々十数名を対象に、社会調査の分析手法の選択、多変量解析の基本的考え方等実践的な統計的な考え方についての統計学講義を、さらに、人口分析関係の人々に対して多変量解析の講義、特にメキシコの州別人口経済社会指標を用いての経済社会指標と人口指標との関連づけ、ならびに、それに基づく州の類別を主題とした講義を行い、さらに、人口教育関係の人々に対して、これらの人々が行った調査データ分析に対する統計学的アドバイスを行い、さらにまた、人口分析・人口教育両グループの人々に対して、コンピュータのソフト(SPSS)によるデータの多変量解析のデモンストレーションを行った。

視聴覚関係の専門家として望月明光専門家が1985年10月より派遣されており、協力に多忙である。現在CONAPOのスタッフには視聴覚教育を推進しうる技術者がいない。しかし、CONAPOの人口教育の研修分野においては、視聴覚教育を導入し、その機材・教材の効果的運用の必要性が生じており、スタッフの養成が急務になっている。また州人口審議会人口教育担当者への研修もあるため、視聴覚教育専門家の長期滞在の必要性が痛感されている。

(2) 派遣専門家との協議(1986年1月27日)

小林和正団長、伊藤達也、高橋重郷、成田明敏(JICA)は日本人専門家(福田専門家、武田調整員、西岡専門家)から、このプロジェクトの活動の概要について報告をうけた。

① CONAPO側と日本人専門家の調整を図るために、昨年11月より月1回の定期連絡

会議を開催するようになった。それによって、プロジェクトにかかわる情報の相互交換を行っている。

② 専門家派遣の延長の問題

日本人専門家の派遣期間の延長について、福田専門家より CONAPO 側の要望が説明された。CONAPO 側の要望は、現在派遣中の専門家についてはプロジェクト終了まで、その期間が延長されることを望んでいる。具体的には、西岡専門家（人口教育担当）の派遣期間については、現在 1986 年 5 月を 1987 年 8 月とする。人口データ・ベース分野については、松村、福田、沢田専門家の派遣期間を、このプロジェクト終了までの期間とする。視聴覚分野については、望月専門家の派遣期間を、とりあえず一年間延長する。とくにこの分野については技術移転が約 3 割程度進んだ段階であり、カウンター・パートを CONAPO 側専任者として明確にして貰う必要があること。また、供与機材をいかに利用するかといったソフトのノウハウとハードの知識をもちあわせた専門家を派遣する必要があることが指摘された。プロジェクト調整員については、CONAPO 側としてはその延長の申請は出さない。これについては JICA 側で対応する必要があることが報告された。また、プロジェクト・リーダーの専任については JICA 側にその扱いを任せる。

③ 対 CONAPO 協議の方針

CONAPO 側との協議については、上記の報告にもとづいて、次の諸点についてまず説明を求めることとした。

- イ) 人口教育部門における、全国調査の変更（8 地域調査への変更）についての説明
- ロ) 視聴覚教育部門におけるカウンター・パートの問題（適切な人員配置）についての説明
- ハ) それぞれの部門におけるカウンター・パートの現状と将来計画について
- ニ) 研修員の派遣計画
- ホ) コンピュータを除く機材の供与希望の聴取
- ヘ) その他当初の了解された事業計画の変更に関わる事項の説明

(3) JICA メキシコ事務所長との協議（1986 年 1 月 28 日）

小林和正団長、伊藤達也、高橋重郷、成田明敏（JICA）、福田専門家、武田調整員は、同日午前 10 時、メキシコ JICA 細野事務所長を訪問し、今回調査団との打ち合わせを行った。

(4) 第 1 回対 CONAPO 協議（1986 年 1 月 28 日、於：CONAPO）

調査団、細野メキシコ JICA 事務所長、日本人専門家とマルチネス・メキシコ人口審議会総長を始めとする CONAPO 側代表との第一回協議を、同日 12:00 より開催した。

① まず、日本側よりいくつかの点について、質問がなされた。それらを列挙すれば以下の通りである。

イ) ケレタロ移転の問題

政府の基本的な移転計画では、ケレタロ移転が決まっているが、受け入れ体制の問題や、移転にともなう費用の問題にかかわっており、それらの問題が解決されなければ実際に移転の運びにはならない実情にある。予算企画省の承認にかかっているわけであるが、現在のところ指示待ちの状態である。

ロ) 国連からの援助計画について

国連からの CONAPO に対する援助は 200 万 U\$ なされている。それらは、パーソナル・コンピュータの購入(2台)や人口分析のためのソフト・ウェアの導入、一部職員の雇用等に当てられている。

ハ) アメリカ合衆国のリサーチ・トライアングル・インスティテュートとの人口推計プロジェクトについて

これは、人口推計の依頼ではなく、リサーチ・トライアングル・インスティテュートが開発して販売しているロジャーズの多地域人口推計モデルと教育と雇用に関する推計パッケージ・プログラムを購入したということである。

② 人口教育に関する活動報告 (CONAPO: リベラ氏)

この部門については、2つのプロジェクトがあり、1.社会文化的調査、と2.人口教育に関わる人材養成がある。社会文化的調査は、人口教育に関わる基本調査と農村パイロット調査に分かれる。

社会文化的調査のうち、人口教育に関わる基本調査は、現在のところ計画を文書にまとめたところである。また、現在調査デザインをおこなっている。調査の規模については8地域の調査とし、本年にそのうちの4地域の調査を実施する。なお、この調査にも日本人専門家の協力を得る体制で進んでおり、昨年11月のミッションの要請に答えている。日本人専門家である西岡氏には'88年の調査の終了まで参加して頂けることを希望している。

農村パイロット調査については、昨年11月以降、調査活動プランの策定、調査地の選定、調査票の作成等を行ってきた。調査の候補地として、トラスカラ州の2郡の郡長に会った。現地の情報をもとに机上資料とつき合わせ、今後調査地を選定していく。今後トラスカラ州の COESPO の長と会い、それぞれの人口に関するデータを収集して行く予定である。

この調査が同質な二つの村落を調査地として設定するという目的をもっているため、適切な調査地を選定するのに時間を要している。いずれにせよ、来週にはトラスカラ州

からのデータが入ってくる予定である。今後の日本人専門家の役割は、西岡専門家の作成した調査票案を生かすこと、調査票のコーディング段階等における参加、分析段階における変数の関連の見方や有効な変数等についてのアドバイスを受ける予定である。

人口教育に関わる基本調査の調査地域が、当初の全地域調査から8地域調査に変更された経過について、当初の計画案では調査の規模が大きすぎ（全国で31州とメキシコ特別区の32地域ある）予算の制約等の問題から実施が困難であること。また各州についてその中からサンプリングによって標本を抽出する予定であったが技術的な問題もあった。そこで各州が経済・地理的に地域分けが可能なことから8地域の調査に変更した。

新案では、ある特定の地域に焦点をあて、特定の地域(州)については詳細な調査を行う。これは社会文化的な調査を通してそれぞれの地域にあった人口政策を行うのが目的であることとも合致している。つまり、この調査によって人口教育活動を支援するための情報が得られることになる。

1986年の調査計画では、4地域の調査を実施するが、すでに西岡専門家にこれについて相談しているところである。またこの調査の実施については州の人口委員会(COESPO)の協力が大きな役割を果たす。

③ 研修部門とコミュニケーション部門(メディーナ氏)

1985～87年のプログラムについて報告すると、'85年の研修の数は計画を下回ったがその内容は当初の計画より充実した。これらについては12月の報告書にそれぞれの件数などを示してあるので報告は省略する。現在コース出席者のフォローアップが出来る体制を整えつつあり、2～3か月後には実際にそれが機能し始める。各州のCOESPO職員に対する研修についての計画書が出来ている。86年についての各コースの開設計画では、人口教育全国会議1回、人口教育地域会議2回、社会・コミュニケーション全国会議1回、人口推計に関するゼミナールを1回、統計パッケージ利用コース1回またそれに加えて年2回の評価プログラムを実施する。これに関してはコース出席者の名簿等の情報をコンピュータに入力中である。

実際の研修活動には、地域との打ち合わせ(州の文教委員会等)等のコーディネーションに相当の費用がかかっている。また、通常1コースに3人の講師が派遣されるが、このような実際のオペレーションのためのインストラクターの旅費・宿泊費にも費用がかかる。

コースでは視聴覚教材(16mm映写機、スライド、OHP等)を用いた教育とグループ・ダイナミクスによる討議を中心に研修活動が行われる。実地教育では、午前中に講義を行い、午後に実習として実際に農村女性を集めて人口教育を行うといった方法がとられている。

人口教育とコミュニケーションに関連し、これまでCONAPOが行ってきた活動の一部を今後州の人口委員会(COESPO)に移して行きつつある。たとえば地域の人口推計や農村の人口教育活動であるが、そのためには州COESPOの専門家教育が今後重要な課題となって行く。

④ 1985年の機材購入の報告

イ) 人口教育・研修関係

車輛12台(購入済み、各州へ配置)、マイクロバス(購入手続き中)、電動タイプライター3台

ロ) 視聴覚機材

ビデオ・モニター3台、オーディオ・システム2台、16mm映写機、オーディオ・スライド(購入手続き中)、OHP2台、ビデオ・カメラ1台、オープン・リール・テープ・デッキ3台、カセット・レコーダー20台、35mmカメラ等、その他機材に必要なアクセサリ

上記の報告に関連し、望月専門家より、(i)機材調達の経過、(ii)カウンタ・パートの育成、(iii)その他について以下のような報告があった。

(i) 機材調達の経過

視聴覚関係では、20種類にのぼる機材の調達が行われたが、そのために調達のための購入順序を決めた。調達に当たっては、基準を設けた。それは、第一にメキシコで生産されている機材については現地調達とするが、メキシコで調達できないものについては輸入することとした。メキシコに代理店のない機材の輸入等については問題を生じた。これに関し、現地業者のリストがあれば機材の購入がスムーズに出来たであろう。したがって、今後CONAPOの協力がぜひとも必要であり、協力を要請したい。

(ii) カウンタパートの育成

現在のところ、視聴覚教育に関わるカウンタパートの育成が不十分である。それらの諸点を列挙すれば、研修プログラムの中に機材利用のプログラムを作り、機材の有効利用の方法を教える必要がある。州COESPOの意見として、機材の保守、管理、操作法の指導について要望がある。また、COESPOの貸し出す機材について拡充する必要性があること。CONAPOの要望として、教材のフィルム等が古くそれらを新規に作成したいとの要望がある。その場合教材制作係りのセクションが設けられ、最低4~5人の人員が必要となる。また、視聴覚ソフト制作関係の拡充が必要で、スタジオ設備等が必要となる。

CONAPOとして、次の発言があった。

視聴覚部門については、望月氏に良い顧問として活躍して頂いた。望月専門家の

指摘については、CONAPOも同様に受けとめている。機材の購入手続きに関連してはそれにそって行きたい。今回のミニッツ作成においては、そのような経過をふまえて供与機材に関する若干の追加と変更がある。それについては可能かどうか聞きたい。

地方の人口委員会（COESPO）には、人口教育のためのソフトや機材が不足している。先程の望月氏の意見に従って進めて行くとすればどうしても機材が必要である。

当初の供与計画では日常的に使う機材のみであったが、CONAPOがソフト制作機材（含むオーディオ・ビジュアル・ルーム）の供与を受け、COESPOがソフトを利用するための機材の供与を受けることが望ましい。したがって、プロジェクトの終了までの供与機材について見直すことをしたい。また人口教育に関する印刷物についても再版したい希望があり、それについても見直しに含めたい希望をもっている。

日本側調査団は、上記について次のように回答した。

調査団での検討の必要があり、文書で要求を出して頂きたい。また、視聴覚部門における望月専門家については、所属先より1か月程度の派遣しかみとめられないとの回答があり、今後長期の派遣は難しいことを理解して頂きたい。したがって、1986年以降については、望月専門家のノウハウを受けCONAPO側で機材の選定等を行って頂く必要がある。

(5) 第2回対CONAPO協議（1986年1月29日、於CONAPO）

① 研修員の派遣について（サーベドラ局長）

これまでの研修について、CONAPO側からその反省と今後の要望が出された。以下にその諸点を列挙すれば、①日本にはCONAPO的性格の機関がなく、CONAPOで行われている事業は各種の機関にまたがっている。②また研修の内容とその目的が不十分で、前回研修では直接的にメキシコに生かせる研修が十分でなかった。したがって、日本におけるメキシコ人の研修がこのプロジェクトにおいてどのような意味があるか再考する必要がある。つまり、この研修がJICAとの契約義務かどうか聞きたい。

これについて、日本側は、今後の研修は第2回目のものと似たようなものになるであろう。これまでの研修をふまえて研修内容については再協議し、研修プログラムを決めていきたい。また日本における研修によって、このプロジェクトの目的にそった技術移転ができれば研修をおこなうべきである旨の回答を行った。

メキシコ側より、どのようなコースが日本側として準備できるのか、また研修参加者の名簿はいつまでに提出する必要があるかとの質問があった。

またメキシコ側より、現在のところ考えられている人選として、人口推計部門については、人口分析部の部長であるオールドリカ氏、ならびにコンピュータ部門の責任者であるオロスコ氏、また人口教育部門については人口コミュニケーション部長のオルギン氏と研修部からメディーナ氏かカルメンド・ランテス氏（研修組織担当者）をと考えている。この案は仮の案で決定ではないことを付記したい、との発言があった。

日本側より、研修についてはミニッツにそってやるとすれば、5月であるから、その場合には実施の3か月まえには日本側へ知らせる必要がある、いずれにしろ実施の3か月まえには通知する必要があると語り旨の回答があった。

さらに、CONAPO側より研修時期については4人同時ではなく、別々でもよいかとの質問があり、日本側としては差し障えない旨の回答をした。

研修内容については、家族計画、環境開発に関わる資料等の視察や、日本の高齢化の問題と技術開発がどうむすびついているか等について調査研究をしたいとの希望が出された。

② 専門家派遣の延長について

専門家派遣について、以下の要望がCONAPO側よりなされた。以下にその要望事項を列挙する。

人口教育部門については、本年に基本調査を4地域で実施し、また農村パイロット調査も実施する予定なので、1986年以降についても、社会人類学の専門家である現在派遣中の西岡専門家の派遣延長が望ましい。具体的には87年8月までの滞在を希望する。とくに、この分野では調査の企画段階から報告書の作成まで同一人物の滞在を強く希望している。

コミュニケーション部門については、スライド、フィルム一般の制作関係者を一年間以上の長期にわたって派遣されたい。とくにこの分野については視聴覚機材に関する知識を有する必要がある、それにそった専門家の派遣を希望する。

統計学専門家（人口教育部門）については、統計専門家の短期派遣を希望している。派遣時期については、86年8月以降であるが、実際には9月という含みで、具体的には後程つめて行きたい。

視聴覚分野については、望月専門家に、CONAPOで必要な調達機材の選定にぜひ協力して頂きたい。また望月専門家に代わる専門家の派遣については、ソフトの専門家でおおかつハードについても知識のある専門家の派遣をお願いしたい。

なお、これについては望月専門家よりコメントがあり、州の人口委員会（GOESPO）への指導が終わっていないので、ソフトに対する要望だけでは問題がある事が指摘された。

メキシコ側の要望について日本側は次のように回答した。西岡専門家についてはCONAPO側の要望にそって対処したい。視聴覚部門については、再度協議する必要がある。

3. 地方視察

今回の調査団のうち、大友・成田団員は、人口推計部門の協議継続及びミニッツ作成のため、メキシコ・シティに残り、小林団長、藤田、伊藤、高橋各団員はキンタナロー州のカンクン市とチュトゥマル市を訪問した。なお、CONAPOより人口教育部門担当者であるメディーナ氏の同行を得た。

以下順次その報告を記す。

(1) キンタナロー州ベニトクワレ郡カンクン市訪問

調査団は、1月31日上記カンクン市を訪問し、キンタナロー州COESPOの職員の出迎えを受けた。

午後2時、郡の人口審議会を訪問し、人口教育活動の実情視察を行った。郡レベルにおける人口教育活動は、①カンクン市における郡の人口審議会は昨年3月21日に活動を開始した。②医療施設などの公共的な施設において、人口教育に関する広報活動の一貫として、家族計画に関するポスター作りを行っている。③また、学校教育を通して、性教育に関する講演会を開催し、家族計画に関する知識の普及を図る活動を行っている。④農村部等では、CONAPOが作成した家族計画に関するパンフレットを用いた人口教育活動を行っている。⑤また、家族計画の普及のためにラジオのスポットによる広報活動を行っている。⑥キンタナロー州の人口審議会と州政府による人口調査を担当し、地域行政と人口政策のための基礎資料の作成を担当している。

この内、州レベルにおける独自の人口調査については、人口移動により、10年に1回の国勢調査ではそれが適切な行政施策のための基礎資料として不十分で、州独自の人口調査によって人口に関する最新の情報を収集することを目的として行っているとの説明があった。また具体的な調査方法や調査項目についての説明を受けた。

郡の人口審議会の訪問の後、郡役所を訪問し、郡助役のラウル・ピアノエバ氏と会話し、郡の人口政策に関する説明を受けた。とくに連邦政府が観光を主体とする開発によって誕生したカンクン市の人口の現状について説明を受け、急速の人口増加とその問題について説明を受けた。

①カンクン市は観光によって立地しており、現在総客室数はカンクン市で6,000室ある。しかもこれらの多くは1980～85年間に急速に増加した。②建設業とホテル関連の従業者数の増加とその行政的問題については、まず人口数の増加についてみれば、1968

年当時の開発以前においては、カンクン市を含む周辺部の人口数は110人程を数えるだけであったが、郡の人口審議会の調査によれば約10万人の人口に達している。人口増加率についてみれば、全国の人口増加率が3.5%であるのに対してカンクン市のそれは13%に上っている。③したがって公共サービスのための事業が人口増加に追いつかない実情にある。④そのためには正確な人口に関する統計を把握することが必要で、郡の人口審議会設立の目的の一つは、人口政策のための基礎統計を作成することにあつた。

続いて、調査団から人口に関するいくつかの質問がだされ、郡助役から説明を受けた。それを簡書書に示すと、①移動人口の就業形態は建設労働を中心にはじまり、現在は観光業種を中心に人口移入がある。②移動の形態的側面として、完全な人口移動によってカンクン市に移住してくる場合もあるが、就業行動が現金収入を求めることにあるので、ウィーク・デーはカンクン市で就労し、週末は家族のいる農村部へ帰るといった形態が多い。③人口動態統計に関連して、出生登録以前の死亡による登録の問題は非常に多い。そのため、死亡・出生だけでなく結婚についても移動市民登録システムによって、人口登録の改善に務めているところである。とくに市民登録については学校の先生の役割が大きく、就学児童の親にたいする指導が重要となっている。④人口登録についてはすでに以前からDIFという組織を通して人口登録のキャンペーンを行っている。

(2) キンタナロー州州都チェトゥマル市州人口審議会の訪問

1986年2月1日、チェトゥマル市を訪問し、州人口審議会において、事務局長と会話し、州の人口活動について説明を受けた。

まず、COESPOの設立経過について、キンタナロー州の1984年5月24日、州議会の政令によって設立が決まり、84年9月7日の会議で正式に決定された。人口審議会は州知事を審議会議長として、関係者(郡長)などによって構成されている。審議会の役目はCONAPOからの政策を地域で実施していくためのアレンジと具体的に活動を行うための事務所の設置を行ってきた。当初州人口審議会の事務局は5人でスタートしたが84年末には7人のスタッフによって運営されている。

85年の活動状況については、現在のところ4つのプログラムについて活動を行っている。それらは、①人口調査プログラム、②人口教育プログラム、③家族の統合的開発プログラム、④女性の社会参加プログラムである。

上記プログラムの内、まず人口調査プログラムについて、コーディネーターのオネンモ・ポッタ氏からその概要について説明があつた。

① この調査は郡レベルの人口調査である。調査は農村部と都市部の調査に分かれ、調査票の内容や方法に若干の違いがある。農村部の調査は全数調査で、家族構成、年齢、性、職業、移動、出生地、言語などの項目について調査された。

キンタナロー州の人口は約50万人で、それらが50万ha²に住んでいる。州の人口自然増加率は全国と同じだが、転入超過のため、社会増が多い。この調査は公式のものではなくて、転入増加による公共サービス等の分野におよぼす影響に対処するための基礎資料を得ることを目的としている。

調査は、都市部と農村部に分け、都市部は20%の人口を調査し、農村部は全人口を調査した。都市部における20%抽出の方法は、州政府のあるチュエマル市のケースを例にとると、まず都市の街地図を作成し、約900の街区を住民の生活内容によって11の層に層化し、街区を抽出単位とし、層ごとに20%に相当する街区をランダムに抽出した。なお、街区は、おおむね直線の道路によって区切られた長方形となっている。また、ほぼ同じ大きさの街区が連続している。抽出された街区に常住する人口を、調査員が面接し調査票（連記式）に記入した。調査事項は、農村部は基本的項目に限られているが、都市部では職業など経済的属性をも調査項目に加えていた。

集計は、州人口審議会（COESPO）が一括して行い、1月末段階で予定の80%を終了していた。なお、集計内容は、基本的には1980年センサスと同様であるが、1980年センサスではまだ集計されていない世帯数あるいは労働力人口の将来推計に必要な結果表も含まれている。しかし、この調査から出生率、死亡率などの人口動態情報を推定することは、企画段階で考慮されていなかった。

この調査については、州とCONAPOの援助によって行われ、実際の調査のほとんどは郡の人口審議会がやり、州COESPOは調査の管理的部門を担当している。われわれCOESPOの役割は、郡の人口審議会を教育し、郡独自で調査をやってもらう手助けをすることである。また、調査にあたった調査員は海軍と学生奉仕員であった。

② 人口教育部門の活動について

人口教育では各種の研修コースを設け、家族計画の普及を図っている。研修コースはそれぞれ対象者によっていくつかのコースに分かれている。たとえば、①小学校の先生を対象としたコース、②地域リーダーを対象としたコース、③農民リーダーを対象としたコース、④医療機関を対象としたコースである。基本的な戦略は各分野のリーダーを教育し、そこを通して人口教育を広めることである。

研修の内容は、家族の統合化に関するもの（生活改善を柱とする教育、医療等の家族に関わる基盤整備）と性教育である。

マス・メディアを通じた活動としては、映画やラジオ放送などでスポットをながしている。たとえば「州の人口の50%は20歳未満である」といった内容のスポットである。また、農村部ではパンフレットを作成し、配布活動を行っている。さらに、州、郡の各レベルで講演会を開催したり、市場・広場で録音テープを流すなどの広報活動が取

り組まれている。

このような活動は、CONAPOの活動以降の自然増加率の低下が示すように、大きな効果を生んでいると考えている。

以上の活動に関する質疑の後、州の人口審議会の構成について説明を受け訪問を終わった。

4. 総括

1. 経過

メキシコは、その人口増加率が年平均で1960年代に3.1%、1970年代に3.4%と極めて高率で、経済成長率が下降気味となってきた1974年代前半には人口圧力が国家的な大問題として認識されるようになってきたため、同年に「国家人口法」を制定し、国家人口審議会事務局（CONAPO）を設置して人口問題の解決に努めてきた。しかし、1980年の人口増加率はまだ3.3%の高率で、経済状況は悪化の傾向にあったため、1982年に発足した新政権も国家開発計画の成否を左右するものとして人口計画を重視し、CONAPOより人口問題解決の一環として、人口活動の促進に対する協力を日本に要請してきた。現行の協力プロジェクトの経過を振り返ると、1983年11月20-12月10日に協力計画策定専門家チームが派遣されて協議が行われ、それを受けて1984年7月1日-12日に実施協議調査団が派遣され、同7月4日にCONAPOとの間にR/Dを締結し、ここに協力が正式に開始された。1984年度末から武田良子調整員が派遣された。初年度（1984年度）の協力の終了に伴い、プロジェクトの実施状況を調査するとともに協力実施年次計画の策定等のため、1985年3月7日-19日にプロジェクト計画打合せ調査団が派遣され、同3月18日にミニッツに署名が行われ、以後これに基づいて1985年度の協力が進められてきた。長期専門家が派遣されて協力活動が恒常化し出したのもこの年度からで福田久明、西岡八郎、松村迪雄の3長期専門家が相次いで派遣された。こうして今回この1984・1985両年度の進捗状況を把握し、今後のプロジェクト運営について助言を行うとともに協力方針について協議するために、1986年1月27日-2月7日にプロジェクト計画打合せ調査団が派遣され、同2月4日に日本側調査団長とCONAPO事務総長とによってミニッツに署名がなされて、これにより、第3年度（1986年度）ならびにそれ以降の協力方針が定められた。

このメキシコ人口活動促進プロジェクトは、1988年9月30日までを協力期間として、日本人専門家の派遣、メキシコ人研修員の受け入れ、機材供与、中堅技術者養成の4つを基本協力事項とするものであるが、協力すべき人口活動の内容からいえば、人口データベースの整備・利用の分野と人口教育の分野とに2大別される。前者は、コンピュータ

等データベース基本機材の導入、それによる基本的人口データ、社会経済データの整備、国レベルおよび州レベルの将来人口推計、社会経済開発と関連した人口の諸推計の実施などを主要な活動とし、後者は、州政府の人口教育担当官の訓練、人口教育関係の地域基礎調査、人口教育効果測定のためのパイロット調査の実施などを主要な活動とする。前述の日本人専門家の派遣等の4つの基本的協力は、これら人口データベースと人口教育との両分野に関して展開される方針がとられているのである。

2. 今後の協力方針

この度のミニッツにおいて合意に達した協力方針の大綱は次の通りである。

(1) データバンク関係プロジェクト

① 基本的人口データの整備（1986年12月まで）

これには入力データの整備、データの入力、データのプログラミング、評価と修正、指標の計算の5段階の作業が含まれる。

② 国レベルおよび国内地域レベルの将来人口推計（1986年1月-1987年6月）

これには国内地域レベルの既往の人口動向の分析、国内地域レベルの社会経済的特性の分析、将来人口推計方法の選定、推計仮定の選定、計算、最終的調整、推計結果の分析と発表の7段階の作業が含まれる。

③ 社会経済データの整備、データの入力、データのプログラミング、評価と修正の4段階の作業が含まれる。

④ 開発に関連する派生人口推計（1987年1月-1988年7月）

これは雇用に関連する推計と教育・住宅・保健・その他に関する推計との二つからなり、それぞれ、既往の動向の分析、推計の方法および仮定の選定、計算および調整の3段階の作業からなる。

⑤ コンピュータシステムのデザイン、プログラミング、プログラミング（1988年9月まで）

これにはシステムデザイン、プログラミング、プログラミング要員に対する研修、コンピュータシステムの導入と使用、入力データ要員に対する研修の三つが含まれる。

(2) 人口教育関係プロジェクト

⑥ 人口教育基礎調査の実施（1988年4月まで）

4地域についての基礎調査とその他の4地域についての基礎調査とよりなり、ともに企画、実施、分析・報告の4段階を含む。

⑦ 2農村におけるパイロット調査の実施（1988年3月まで）

トラクスカラにおいて調査の予定で、予備調査、コミュニケーション・教育の活動の実施、フォローアップ調査、コミュニケーション・教育の活動の実施、評価のため

の調査の5段階からなる。

- (3) 人口教育に関する州政府担当官の研修(1988年まで)

32州各州について1986-1988年毎年の研修実施時期が予定された。

- (4) 日本人専門家(調整員を含む)の派遣

<長期>

人口学1名(1985年7月-1988年9月)

人口学1名(1986年9月-1988年9月)

コンピュータプログラミング1名(1985年5月-1988年9月)

社会人類学1名(1985年5月-1988年9月)

調整員1名(1985年2月-1988年9月)

<短期>

人口学2名(1986-1988年毎年各1回)

統計学2名(1986-1988年毎年各1回)

なお、このほかに、コンピュータプログラミング1名(1986年3-1988年9月まで)および視聴覚1名(1986年4月-1987年3月)の派遣も望まれる。

- (5) 日本人専門家はCONAPO側によって国際専門家として認められ、本人の顔写真添付の身分証明書がCONAPO事務総長によって署名され発行されるものとする。

- (6) 日本人専門家に対して、しかるべき執務室ならびに設備がCONAPOによって提供されるものとする。

- (7) 研修員の受入

人口データの整備と将来人口推計;社会経済基礎データの整備と派生推計;コンピュータシステムのデザイン、プログラミングおよびプロセッシング;人口教育の基礎調査およびパイロット調査;IECの5分野の各々について1986-1988年毎年1回1名受入

- (8) 機材供与

紙面の関係でここには記載しない。別添ミニッツ資料参照。

- (9) JICAによってCONAPOに導入されたコンピュータシステムS/38を有効に使用するために、CONAPOはシステムのデザイン、プログラミング、プロセッシング担当のコンピュータ要員を少なくとも4名任命するものとする。このうち、2名はシステムデザイン、プログラミングおよびプロセッシング、ならびにコンピュータシステム機材管理に専従し、その他の者はコンピュータシステムのCONAPOにおける活動への利用の促進に専従するものとする。このほかに、CONAPOはS/38へのデータ入力に従事すべきコンピュータ要員として少なくとも6名を任命するものとする。

(10) 1986年メキシコにおけるCONAPO職員に対するコンピュータシステムに関する研修計画

これは、コンピュータシステムの基礎知識に関する研修とコンピュータシステムS/38に関する研修とからなる。前者は1986年中に20時間行うものとする。後者は1986年中に20時間をRPGおよびBASICについて、同じく1986年中に20時間をデータ入力ならびにデータベースについて行うものとする。

(11) CONAPOにおける人口教育活動促進のため、人口教育担当のCONAPO職員に対する基礎統計学の研修が1986年7月末までに日本人専門家によって30時間行われるものとする。

(12) 視聴覚方法によって州政府職員の研修を効果的に行うために、スライドフィルムおよびビデオの製作を専門に担当する職員として少なくとも3名をCONAPO事務総長は任命するものとする。

3. おわりに

今回この巡回指導調査団団長として、昨1985年3月の計画打合せ調査団以来久方ぶりにメキシコを訪れ、CONAPOに対する人口活動促進協力プロジェクトのその後の展開に直接に接することができたが、なかなしく強く印象づけられたことは、現地滞在の長期・短期派遣の日本人専門家の方々の重要な貢献である。暦年1985年以降について述べるとして、山下登専門家(コンピュータプログラミング)が1985年3月-6月に、福田久明専門家(コンピュータプログラミング)が1985年5月より継続し、澤田城二専門家(コンピュータプログラミング)が1985年7月-12月および1986年1月-3月に、松村迪雄専門家(人口学)が1985年7月より継続し、西岡八郎専門家(社会人類学)が1985年5月より継続し、望月明光専門家(J. E. O)が1985年3月および1985年10月-1986年2月に、大友篤(人口学)、阿藤誠(同)、坂井博通(統計学)各専門家が1985年11月にそれぞれの担当分野に関してプロジェクトの促進に貢献している。その活動内容については、この報告書のなかで既に記されている。現地滞在の日本人専門家の方々は、CONAPOカウンターパートとの業務上の連絡の緊密化を計るためのCONAPOとの間の定期連絡協議会の開催、ならびに、日本人専門家における業務の相互理解を主目的とした業務連絡会の開催に努めている。協力プロジェクトにとって、カウンターパートとの間のこのようなシステムを通しての相互理解への努力は何よりも大切であろう。派遣専門家の方々のご健闘を祈りたい。

V 添 付 資 料

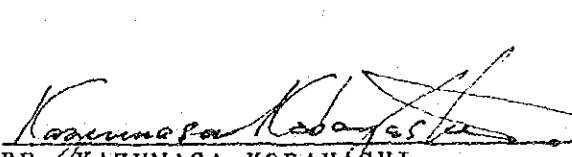
THE MINUTES OF DISCUSSIONS BETWEEN JAPANESE PROGRAM
REVISION MISSION AND THE NATIONAL POPULATION COUNCIL
OF THE UNITED MEXICAN STATES ON THE PROJECT FOR
PROMOTION OF POPULATION ACTIVITIES
IN THE UNITED MEXICAN STATES

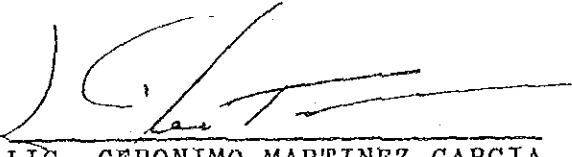
The Japanese Program Revision Mission (hereinafter referred to as "the Mission"), organized by the Japan International Cooperation Agency (hereinafter referred to as "JICA") and headed by Dr. Kazumasa Kobayashi, visited the United Mexican States from January 27 to February 6, 1986 with the end to review the program of the Japanese fiscal year 1985 of the Project for Promotion of Population Activities in the United Mexican States (hereinafter referred to as "the Project") on the ground of the Record of Discussions signed on July 4, 1984, and consequently to revise the Project program for the Japanese fiscal year 1986.

The Joint Committee composed of the Mission and the National Population Council (hereinafter referred to as "CONAPO") had a series of positive discussions on the Project, and reached the consensus described in the documents attached hereto.

The plans of implementation of the Project, dispatch of Japanese experts, receiving Mexican personnel in Japan, providing equipment for the Project for the Japanese fiscal year 1984 and thereafter originally described in the Record of Discussions will be replaced by those described in the present Minutes.

February 4, 1986 at Mexico City


DR. KAZUMASA KOBAYASHI
Leader of the Program Revision
Mission
Japan International Cooperation
Agency
Japan


LIC. GERONIMO MARTINEZ GARCIA
Secretary General
National Population Council
The United Mexican States

1. Tentative schedule for the implementation of the project is shown in Appendix No. 1.
2. Time of arrival and duration of stay in Mexico and the specialized field of each Japanese expert are described in appendix No. 2.
3. Each Japanese expert will be recognized as an International Expert by CONAPO. His/her identification, to which his/her photograph is attached, will be signed and issued by the Secretary General of CONAPO.
4. Appropriate office and facilities for each Japanese expert will be provided by CONAPO.
5. CONAPO and Japanese experts will have the meeting for exchange of information on their activities periodically. Also, CONAPO will provide all of the information on CONAPO's activities concerning the Project by documentation and/or by attendance of Japanese experts to the meeting held by CONAPO.
6. Training of CONAPO personnel in Japan will be undertaken by JICA as shown in appendix No. 3.
7. Equipments necessary for the population activities of CONAPO will be provided by and within the budget of JICA, as shown in appendix No. 4.
8. The computer personnel of CONAPO as shown in appendix No. 5 will be assigned by the Secretary General of CONAPO.
9. Training of the computer personnel of CONAPO in Mexico will be undertaken as shown in appendix No. 6.
10. In order to promote the activities on population education in CONAPO, training on basic statistics will be undertaken for the CONAPO personnel engaged in the activities on population education for 30 hours before the end of July 1986 by Japanese experts.
11. In order to conduct training of the state officials efficiently by the audio-visual methods, three personnels, at least, who are engaged exclusively in slide-film and video production, will be assigned by the Secretary General of CONAPO.

APPENDIX NO.1 TENTATIVE IMPLEMENTATION SCHEDULE OF THE PROJECT

Specifications	1984	1985	1986	1987	1988
I Preparation of basic demographic data.					
a) Preparation of input data.			12		
b) Input of data.			8		
c) Processing of data.			1		
d) Evaluation and correction.			8		
e) Computation of indicators			9		
			12		
			9		
			12		
II Projections of population at national and subnational levels.			1		
a) Analysis of past demographic trends at subnational levels			1		
b) Analysis of socio-economic characteristics at subnational levels.			12		
c) Selection of projection techniques.			3		
d) Selection of assumptions.			1		
e) Computation.			1		
f) Final adjustment.			6		
g) Analysis and presentation of results.			6		
				1	
				3	
				1	
				3	
				4	
				6	

Specifications	1984	1985	1986	1987	1988
III. Preparation of socio-economic data.			6		
a) Preparation of input data.			6	9	12
b) Input of data.			9	10	
c) Processing of data.			9	11	
d) Evaluation and correction.			1	12	
IV. Derivative estimations of population related to development.			1		7
(1) Employment.			1	6	
a) Analysis of past trends.					
b) Selection of projection techniques and assumptions.			3	12	
c) Computation and adjustment				6	7
(2) Education, housing, health, etc.					
a) Analysis of past trends.			1	6	
b) Selection of projection techniques and assumptions.			3	12	
c) Computation and adjustment.				6	7

Specifications	1984	1985	1986	1987	1988
V. Design of computer systems, programming and/or processing.		3			
a) Training for personnel for system design, programming and/or processing.		3 6 9	12		
b) Introduction and use of computer system.		8 10	use		
c) Training for personnel on inputting data.		1 6			
VI. Carrying out of basic studies. 1/	7				4
(1) Basic studies for 4 regions. 2/		7		2	
a) Planning		7	4		
b) Implementation			5		
c) Tabulation			8		
d) Analysis and Reporting			9 10		
(2) Basic studies for other 4 regions. 3/			11	2	
a) Planning				3	4
b) Implementation				3 5	
c) Tabulation				6 9	
d) Analysis and Reporting				10 11	
				12	4

NOTE:

1/ Includes the surveys conducted in Hidalgo and Guerrero.

2/ Northwest (Baja California, Baja California Sur, Sonora, Sinaloa and Nayarit), North (Chihuahua, Coahuila, Durango, Zacatecas and San Luis Potosi), Northeast (Nuevo Leon and Tamaulipas), Central West (Jalisco, Aguascalientes, Colima, Michoacan and Guanajuato)

3/ Central East (Queretaro, Mexico, Distrito Federal, Morelos, Hidalgo, Tlaxcala and Puebla), South (Guerrero, Oaxaca and Chiapas), East (Veracruz and Tabasco), Peninsula of Yucatan (Campeche, Yucatan and Quintana Roo).

Specifications	1984	1985	1986	1987	1988
VII. Carrying out of pilot studies in specific 2 rural communities. 1/	7				3
In Tlaxcala		7			3
(1) Preliminary study		7	7		
(2) Activities of communication and education (1)			5	2	
(3) Follow-up study.				1 3	
(4) Activities of communication and education (2)				4	12
(5) Evaluation study.					1 3

NOTE:

1/ Includes the surveys conducted in Atlaltlauca and Chichihualco.

Specifications	1984		1985		1986		1987		1988	
VIII. Training of state's Officials on "Population education"										
Aguascalientes	2				3 4 6 7		5 6	12	2 4	2 4
Baja California	2	5			3 4 6 7		5 6	12	2 4	2 4
Baja California Sur	2	5	12		3 4 6 7		5 6	12	2 4	2 4
Campeche	2	5			3 4 7 10		6 9	12	2 4	2 4
Coahuila	2				3 4 6 7		5 6	12	2 4	2 4
Colima					3 4 6 7		5 6	12	2 4	2 4
Chiapas	2	5			3 4 7 10		6 9	12	2 4	2 4
Chihuahua	2 3 5				3 4 6 7		5 6	12	2 4	2 4
Distrito Federal	2 3 5				3 4 7 10 12		6 9	12	2 4	2 4
Durango	2	6			3 4 6 7		5 6	12	2 4	2 4
Guanaajuato	2				3 4 6 7		5 6	12	2 4	2 4
Guerrero	2	5 6			3 4 7 10		6 9	12	2 4	2 4
Hidalgo	2	5			3 4 7 10		6 9	12	2 4	2 4
Jalisco	2		10		3 4 6 7		5 6	12	2 4	2 4
Mexico	2		9		3 4 7 10		6 9	12	2 4	2 4
Michoacan	4 5				3 4 7 10		6 9	12	2 4	2 4
Morelos	2	5	10		3 4 7 10		6 9	12	2 4	2 4
Nayarit					3 4 6 7		5 6	12	2 4	2 4
Nuevo Leon	2	5	11		3 4 6 7		5 6	12	2 4	2 4
Oaxaca					3 4 7 10		6 9	12	2 4	2 4
Puebla	2	5 7			3 4 7 10		6 9	12	2 4	2 4

Specifications	1984		1985		1986		1987		1988	
Queretaro					3 4	7 10	6	9 12	2 4	2 4
Quintana Roo		2 3 5			3 4	7 10 12	6	9 12	2 4	2 4
San Luis Potosi		5			3 4 6 7		5 6	12	2 4	2 4
Sinaloa		2 5			3 4 6 7		5 6	12	2 4	2 4
Sonora		2 5			3 4 6 7		5 6	12	2 4	2 4
Tabasco		5	9		3 4	7 10	6	9 12	2 4	2 4
Tamaulipas		2 3 5			3 4 6 7		5 6	12	2 4	2 4
Tlaxcala		2 3 5			3 4	7 10	6	9 12	2 4	2 4
Veracruz					3 4	7 10	6	9 12	2 4	2 4
Yucatan		5			3 4	7 11	6	9 12	2 4	2 4
Zacatecas		2 5			3 4 6 7		5 6	12	2 4	2 4

APPENDIX NO.2 PLAN FOR DISPATCH OF JAPANESE EXPERTS

FIELDS OF SPECIALITIES	1984		1985		1986		1987		1988	
(1) For Preparation	8	—								
Demography (2)	8	—								
Administration (1) JICA Staff										
(2) Coordination (1)	12	—	2						9	
(3) Demography (2)	12	—		11	8		8	7	—	9
Demography (1)			7							
Demography (1)					9					9
(4) Statistics (1)	12	—		11	9		8	7	—	9
Statistics (1)					9		8	7	—	9
(5) Computer programming (1)			3	6						
Computer programming (1)				5						
Computer programming (1)										
(6) Social Anthropology (1)										
Social Anthropology (1)	12	—		7	12	13				9
(7) Sociology (1)	12	—		5						9
(8) Rural Development (1)	12	—								
(9) Urban Development (1)	12	—								
(10) Public Health (1)	12	—								
(11) Information, Education and Communication (1)			3	10	2	4				3

APPENDIX NO.3 PLAN OF RECEIVING MEXICAN PERSONNEL IN JAPAN

FIELDS	1984	1985	1986	1987	1988
1. Preparation of demographic data and projections.	11 (1 person)	7	6	5	5
2. Preparation of basic socio-economic data and derivative estimation.	11 (1 person)	7		5	5
3. Design of computer system, programming, and/or processing			6	5	5
4. Basic study and pilot study for population education.		7	5		5
5. Information, education and communication.			5	5	

APPENDIX NO.4 PLAN OF PROVIDING EQUIPMENT FOR THE PROJECT ₹/

NAME OF EQUIPMENT & MATERIALS	1984	1985	1986	1987	1988
I. Equipment for computer systems					
1. Mini computer					
(1) C.P.U.	1				
(2) Magnetic Disk Unit	1				
(3) Printer Unit	1	2	2	1	
(4) Display Unit	2	3	2	2	
(5) Magnetic Tape Unit		1			
(6) High Speed Printer Unit		1			
2. Materials necessary for use of mini computer.	1 Set	1 Set	1 Set	1 Set	1 Set
3. Word Processor	2				
4. Micro Computer			2		
5. Accessories for micro computer (Plotter. Converter etc.)			1 Set		
6. Materials for statistics (Papers for labulation. scale etc.)			1 Set		
II. Equipment for training and survey					
1. Vehicles for field studies and training.	8	15	10	9	
2. Vehicles (Mini bus)		2			
3. Electric Typewriter	5	3			

NAME OF EQUIPMENT & MATERIALS	1984	1985	1986	1987	1988
III. Audio-visual Equipment					
1. Video Monitor Set	1	3	10	22	
2. Audio System, (Amplifier, Speaker, Microphone, Mixer, etc.)		2 Sets			
3. 16mm Film Projector with Screen.		17	20	32	
4. Slide Projector Sound System.		37		32	
5. Over Head Projector with Materials.		2	35		
6. Portable Video Camera.		1	3		
7. Open Reel Tape Recorder.		3			
8. Radio Cassette Tape Recorder.		3			
9. Cassette Tape Recorder.		37		32	
10. 35 mm Camera.	5				
11. Video tape.		450	1000	1000	
12. Cassette Tape.		360	2600	3700	
13. 35 mm Film	500		500	500	
14. 16 mm Film Affixer.	1		1		
15. 16 mm Film Widor.	1		1		
16. Lenses for Camera (normal), Angular and Telephoto.		1 Set	2 Sets		
17. Dissolvment Control for Slide Projector.		3			

NAME OF EQUIPMENT & MATERIALS	1984	1985	1986	1987	1988
18. Wireless Microphone and Amplification System.		3			
19. Audio Mixer Console.		1			
20. Transfer Equipment from 16 mm film to Videocassette.			1	1	
21. Film Inspection Machine			2 Sets		
22. Lighting Kit			300		
23. Open-reel Tape			300	300	
23. Slide Processing Machine			1		

NOTE:

\$/ Machinery and materials described in this plan will be changed and/or added by mutual agreement upon as necessary.

APPENDIX NO.5 ASSIGNMENT OF COMPUTER PERSONNEL.

For the purpose of running efficiently the computer system of S/38 introduced in CONAPO by JICA, CONAPO will assign at least four persons as the computer personnel engaged in designing systems, programming and/or processing of computer. Of those persons, two will be engaged exclusively in designing systems, programming and/or processing of computer, and management of the computer system equipment, the others will be engaged exclusively in promoting the application of the computer system to their activities in CONAPO.

Furthermore, CONAPO will assign at least six persons as the computer personnel engaged in inputting data to the computer system of S/38.

APPENDIX No.6 SCHEDULE OF TRAINING ON COMPUTER SYSTEMS
FOR CONAPO PERSONNEL IN MEXICO FOR 1986.

I. Training on General Knowledge of Computer Systems.

Development and Application of Computer Systems, to be held for 20 hours during the year 1986.

II. Training on Computer System S/38.

1. RPG and BASIC Languages, to be held for 20 hours during the year 1986.
2. Data Input and Data Base, to be held for 20 hours during the year 1986.

○ ミニッツ西文

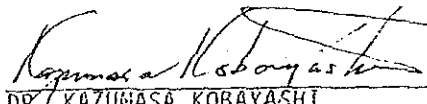
MINUTA DE LAS DISCUSIONES ENTRE LA MISIÓN JAPONESA PARA LA REVISIÓN DE PROGRAMAS Y EL CONSEJO NACIONAL DE POBLACION SOBRE EL PROYECTO PARA LA PROMOCION DE ACTIVIDADES EN POBLACION EN LOS ESTADOS UNIDOS MEXICANOS.

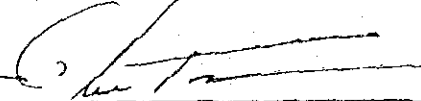
La Misión Japonesa para la revisión de programas (que en lo sucesivo se denominará "Misión"), organizada por la Agencia de Cooperación Internacional del Japón (que en lo sucesivo se denominará "JICA") y encabezada por el Prof. Dr. Kazumasa Kobayashi, visitó los Estados Unidos Mexicanos del 27 de enero al 6 de febrero de 1986, con el propósito de revisar el estado de avance de los programas para el año fiscal japonés de 1985 del Proyecto para la Promoción de Actividades en Población en los Estados Unidos Mexicanos (que en lo sucesivo se denominará "El Proyecto"), sobre la base del Registro de Discusiones firmado el 4 de julio de 1984 y, en consecuencia, revisar los programas del Proyecto para el año fiscal japonés de 1985.

El Comité Técnico compuesto por la Misión y el Consejo Nacional de Población (que en lo sucesivo se denominará "CONAPO") tuvieron una serie de fructíferas discusiones sobre el Proyecto y llegaron al acuerdo que se describe en los documentos que se anexan.

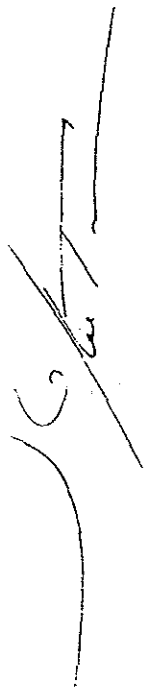
Los planes de ejecución del Proyecto, de envío de expertos japoneses a México, de la capacitación del personal mexicano en Japón y el aprovisionamiento de los equipos para el Proyecto para el año fiscal japonés de 1984 y sucesivos, señalados originalmente en el Registro de Discusiones, serán reemplazados por los planes que se describen en la presente Minuta.

México, D. F., a 4 de febrero de 1986.


DR. KAZUMASA KOBAYASHI
Jefe de la Misión Japonesa
para la Revisión de Programas
Agencia de Cooperación Internacional
del Japón, Japón.


LIC. GERONIMO MARTINEZ GARCIA
Secretario General del Consejo
Nacional de Población de los
Estados Unidos Mexicanos.

1. El calendario tentativo para la ejecución del Proyecto se describe en el Anexo No. 1.
2. Fecha de llegada, duración de su estancia en México y área de especialización de cada uno de los expertos japoneses, se describen en el Anexo No. 2.
3. Cada experto japonés será reconocido como experto internacional del CONAPO. El CONAPO les proveerá de una carta de identificación firmada y expedida por su Secretario General.
4. El CONAPO asignará a cada uno de los expertos japoneses oficinas y medios adecuados para el desempeño de su trabajo.
5. El CONAPO y los expertos japoneses llevarán a cabo reuniones periódicas para intercambiar información sobre sus actividades conjuntas. - También, el CONAPO proveerá de toda información relativa de las actividades del "Proyecto para la Promoción de Actividades en Población - en los Estados Unidos Mexicanos", ya sea a través de documentos y/o - por medio de la asistencia de los especialistas a las reuniones de - trabajo.
6. La capacitación del personal del CONAPO en Japón se realizará por JICA de acuerdo con el Anexo No. 3.
7. Los equipos necesarios para las actividades del CONAPO en materia de población serán proporcionados por JICA, dentro de su presupuesto, - de acuerdo con el Anexo No. 4.
8. El Secretario General del CONAPO asignará el personal necesario para el equipo de cómputo, de acuerdo con el Anexo No. 5.
9. La capacitación en México del personal de cómputo del CONAPO se realizará de acuerdo con el Anexo No. 6.

- 
10. Para promover las actividades que realiza el CONAPO en Educación en Población, se capacitará a los técnicos del área en estadística básica, a través de cursos que, con una duración aproximada de 30 horas, serán dictados por los expertos japoneses antes del fin de julio de 1986.
 11. Para llevar a cabo, en forma eficiente el entrenamiento, por métodos audiovisuales, del personal técnico de los Consejos Estatales de Población, el Secretario General del CONAPO nombrará por lo menos a 3 personas, que se encargarán exclusivamente de la producción de diapositivas y video.

ANEXO No. 1 CALENDARIO TENTATIVO PARA LA EJECUCION DEL PROYECTO

ESPECIFICACIONES	1984	1985	1986	1987	1988
I. Preparación de datos demográficos.					
a) Preparación de datos para input			6		
b) Input de datos			1 8		
c) Procesamiento de datos			1 8		
d) Evaluación y corrección			9 12		
e) Computación de indicadores			9 12		
II. Proyecciones de población a nivel nacional y subnacional.					
a) Análisis de tendencias pasadas demográficas a nivel subnacional.			1 12		
b) Análisis de características socioeconómicas a nivel subnacional.			3	1	
c) Selección de técnicas de proyección.			1 6		
d) Selección de hipótesis.			6	12	
e) Realización de proyecciones.				1 3	
f) Ajuste final.				1 3	
g) Análisis y presentación de resultados.				4 6	

ESPECIFICACIONES	1984	1985	1986	1987	1988
III. Preparación de datos socio-económicos.			6	12	12
a) Preparación de datos para el input.			6	9	
b) Input de datos.			9	10	
c) Procesamiento de datos.			9	11	
d) Evaluación y corrección.			1	12	
IV. Estimaciones derivadas de población relacionadas con el desarrollo.			1		7
(1) Empleo.					
a) Análisis de tendencias pasadas.			1	6	
b) Selección de técnicas de proyección y de hipótesis.			3	12	
c) Computación y ajuste.				6	7
(2) Educación, Vivienda, Salud, etc.					
a) Análisis de tendencias pasadas.			1	6	
b) Selección de técnicas de proyección y de hipótesis.			3	12	
c) Computación y ajuste.				6	7

ESPECIFICACIONES	1984	1985	1986	1987	1988
V. Diseño de los sistemas computarizados, programación y/o procesamiento		3			
a) Entrenamiento para el personal para diseño de sistemas, programación y/o procesamiento.		3 6 9	12		
b) Introducción y uso del sistema		8 10	USO		
c) Entrenamiento para el personal para el input de datos.		INTRODUCCION	1 6		
VI. Llevar a cabo un estudio básico para educación en población. <u>1/</u>	7				4
(1) Estudios básicos para 4 regiones. <u>2/</u>		7		2	
a) Diseño		7	4		
b) Implementación			5		
c) Tabulación			9 10		
d) Análisis y reporte			11 2		
<u>1/</u> Incluye investigaciones realizadas en Hidalgo y Guerrero.					
<u>2/</u> La Región Noroeste (Baja California, Norte (Chihuahua, Coahuila, Durango, Tamaulipas); Región Centro Occidente (Jalisco, Aguascalientes, Colima, Michoacán y Guanajuato); la Región Sur, Sonora, Sinaloa y Yucatán); la Región Floresta (Nuevo León y Potosí).					

ESPECIFICACIONES	1984	1985	1986	1987	1988
(2) Estudios básicos para otras - 4 regiones. <u>3/</u> a) Diseño b) Implementación c) Tabulación d) Análisis y reporte				3 <u>5</u> 6 <u>9</u> <u>1011</u> <u>12</u> 4	4
<u>3/</u> Región Centro Este (Querétaro, México, Distrito Federal, Hidalgo, Tlaxcala y Puebla); Región Sur (Guerrero, Oaxaca y Chiapas); Región Oriental (Veracruz y Tabasco); Región Península de Yucatán (Campeche, Yucatán y Quintana Roo).					
VII. Llevar a cabo un estudio piloto en 2 comunidades rurales. <u>1/</u> En Tlaxcala	7				3
(1) Diagnóstico	7		7		3
(2) Actividades de comunicación y educación. (1)			5	2	
(3) Seguimiento.				1 3	
(4) Actividades de comunicación y educación. (2)				4	12
(5) Evaluación.					1 3
<u>1/</u> Incluye investigaciones realizadas en Atlaltlahuacan y Chichihualco.					

ESPECIFICACIONES	1984	1985	1986	1987	1988
VIII. Capacitación del personal técnico de los COEPOS en "Educación en Población"					
Aguascalientes	2		3 4 6 7	5 6 12	2 4
Baja California	2	5	3 4 6 7	5 6 12	2 4
Baja California Sur	2	5	3 4 6 7 12	5 6 12	2 4
Campeche	2	5	3 4 7 10	6 9 12	2 4
Coahuila	2		3 4 6 7 10	5 6 12	2 4
Colima			3 4 6 7 10	5 6 12	2 4
Chiapas	2	5	3 4 7 10	6 9 12	2 4
Chihuahua	2 3 5		3 4 6 7 10	5 6 12	2 4
Distrito Federal	2 3 5		3 4 6 7 10 12	6 9 12	2 4
Durango	2	6	3 4 6 7	5 6 12	2 4
Guanajuato	2		3 4 6 7	5 6 12	2 4
Guerrero	2	5 6	3 4 7 10	6 9 12	2 4
Hidalgo	2	5	3 4 7 10	6 9 12	2 4
Jalisco	2		3 4 6 7 10	5 6 12	2 4
México	2	9	3 4 7 10	6 9 12	2 4
Michoacán	4 5		3 4 7 10	6 9 12	2 4

ESPECIFICACIONES	1984	1985	1986	1987	1988
Morelos		2 5	3 4 7	6 10	9 12 2 4
Nayarit			3 4 6 7	5 6	12 2 4
Nuevo León		2 5	3 4 6 7	5 6	12 2 4
Oaxaca			3 4 7	6 10	9 12 2 4
Puebla		2 5 7	3 4 7	6 10	9 12 2 4
Querétaro			3 4 7	6 10	9 12 2 4
Quintana Roo		2 3 5	3 4 7	6 10	9 12 2 4
San Luis Potosí		5	3 4 6 7	5 6	12 2 4
Sinaloa		2 5	3 4 6 7	5 6	12 2 4
Sonora		2 5	3 4 6 7	5 6	12 2 4
Tabasco		5	3 4 7	6 10	9 12 2 4
Tamaulipas		2 3 5	3 4 6 7	5 6	12 2 4
Tlaxcala		2 3 5	3 4 7	6 10	9 12 2 4
Veracruz			3 4 7	6 10	9 12 2 4
Yucatán		5	3 4 7	6 10	9 12 2 4
Zacatecas		2 5	3 4 6 7	5 6	12 2 4

ANEXO No. 2 PLAN DE ENVIO DE EXPERTOS JAPONESES

ESPECIALIDADES	1984	1985	1986	1987	1988
(1) Preparación Demografía (2) Administración (1) personal JICA.	<u>8</u> <u>8</u>				
(2) Coordinación	<u>12</u> <u>2</u>				<u>9</u>
(3) Demografía (2) Demografía (1) Demografía (1)	<u>12</u>	<u>11</u> 7	<u>8</u>	<u>8</u>	<u>7</u> <u>9</u> <u>9</u>
(4) Estadística (1) Estadística (1)	<u>12</u>	<u>11</u>	<u>9</u> <u>9</u>	<u>8</u> <u>8</u>	<u>7</u> <u>7</u>
(5) Programación computarizada (1) Programación computarizada (1) Programación computarizada (1)		<u>3</u> <u>6</u> 5			<u>9</u>
(6) Antropología social (1) Antropología social (1)	<u>12</u>	<u>7</u> <u>12</u> <u>1</u> <u>3</u>			<u>9</u>

ESPECIALIDADES	1984	1985	1986	1987	1988
(7) Sociología (1)	<u>12</u>				
(8) Desarrollo rural (1)	<u>12</u>				
(9) Desarrollo urbano (1)	<u>12</u>				
(10) Salud pública (1)	<u>12</u>				
(11) Información, Educación y Comunicación (1)		<u>3</u>	<u>2</u>	<u>4</u>	<u>3</u>
		<u>10</u>			

ANEXO No. 3 PLAN PARA RECIBIR AL PERSONAL MEXICANO EN JAPON.

ESPECIALIDADES	1984		1985		1986		1987		1988	
1. Preparación de datos demográficos y proyecciones.	11 (1 persona)		7		6		5		5	
2. Preparación de datos básicos, socioeconómicos y estimación derivada.	11 (1 persona)		7				5		5	
3. Diseño de sistemas de cómputo, programación y/o procesamiento.					6		5		5	
4. Estudio básico y estudio piloto para educación en población.			7		5				5	
5. Información, Educación y Comunicación.					5		5			

ANEXO No. 4 PLAN DE APROVISIONAMIENTO DE EQUIPOS PARA EL PROYECTO.

NOMBRE DE EQUIPOS Y MATERIALES	1984	1985	1986	1987	1988
I. Equipos para sistema de cómputo.					
I. Minicomputadora					
(1) C.P.U.	1				
(2) Unidad disco magnético	1				
(3) Unidad impresora	1	2	2	1	
(4) Unidad display	2	3	2	2	
(5) Unidad cinta magnética		1			
(6) Unidad impresora de alta velocidad.		1			
2. Materiales necesarios para la minicomputadora.	1 juego	1 juego	1 juego	1 juego	1 juego
3. Procesadora de palabras.	2				
4. Microcomputadora (impresa y pantalla).			2		
5. Accesorios necesarios para microcomputadora (gráfica-dadora, convertidor, etc.).			1 juego		
6. Materiales para estadística (hojas de tabulación, escala, etc.).	1 juego	1 juego	1 juego	1 juego	1 juego
II. Equipos para capacitación e investigación.					
I. Vehículo para estudios de campo y capacitación.	0	15	10	9	

NOMBRE DE EQUIPOS Y MATERIALES:	1984	1985	1986	1987	1988
2. Vehículo (Microbús)		2			
3. Máquina de escribir eléctrica.	5	3			
III. Equipo Audiovisual.					
1. Videocassetera con monitor.	1	3	10	22	
2. Sistema de audio (Amplificador, bocina, micrófono, mezclador, etc.)		2 unidades			
3. Proyector de 16 mm. - con pantalla.		17	20	32	
4. Proyector de diapositivas con sistema sonoro.		37		32	
5. Retroproyector de filmina con materiales.		2	35		
6. Cámara portátil de video.		1	3		

NOMBRE DE EQUIPOS Y MATERIALES	1984	1985	1986	1987	1988
7. Grabadora de carrete.		3			
8. Grabadora de cassette con radio.		3		32	
9. Grabadora de cassette.		37			
10. Cámara fotográfica - 35 mm.	5				
11. Videocassette.		450	1 000	1 000	
12. Cinta de cassette		360	2 600	3 700	
13. Film 35 mm.	500		500		
14. Pegadora de películas.	1		1		
15. Enrolladoras de películas de 16 mm.	1		1		
16. Lentes para cámara - (normal), angular y telefoto.		1 juego	2 juegos		
17. Controles de disolven- cia para proyectores de diapositivas.		3			
18. Micrófonos inalámbricos y sistema de amplifica- ción.		3			

NOMBRE DE EQUIPOS Y MATERIALES:	1984	1985	1986	1987	1988
19. Consola mezcladora de audio. 20. Equipo de transfer de 16 mm. a videocassette. 21. Revisora de película. 22. Sistema de iluminación. 23. Cinta para grabadora de carrete. 24. Procesadora de diapositivas.		1	1 2 juegos 300 1	1	
NOTA: De ser necesario, los equipos y materiales mencionados en este plan pueden ser cambiados y/o agregados según acuerdos mutuos.					

ANEXO No. 5 ASIGNACION DEL PERSONAL DE COMPUTO

Con el objeto de hacer un uso eficiente del Sistema de Cómputo S/38 proporcionado al CONAPO por la JICA, CONAPO nombrará por lo menos a cuatro personas como el personal de cómputo encargado del diseño de los sistemas, la programación y/o la operación del equipo. De éstas, dos se encargarán, exclusivamente, de las actividades mencionadas y a la administración del equipo de cómputo, mientras que las otras se dedicarán exclusivamente a promover la aplicación del sistema de cómputo a sus actividades propias en el CONAPO.

Por otra parte, el CONAPO asignará al menos a seis personas como el personal de cómputo encargado de los insumos de información dentro del sistema de cómputo S/38.

ANEXO No. 6 PROGRAMA DE CAPACITACION SOBRE SISTEMAS DE COMPUTO PARA EL PERSONAL DEL CONAPO A REALIZARSE EN MEXICO DURANTE 1986.

I. *Capacitación sobre el conocimiento general de Sistemas de Cómputo.*

- Curso de Desarrollo y Aplicación de Sistemas de Cómputo con una duración de 20 horas, que se dará en 1986.

II. *Capacitación sobre el Sistema de Cómputo S/38.*

- (1) Curso de Lenguajes RPG y BASIC con duración de 20 horas, que se dará en 1986.

- (2) Curso de Insumo de Datos y Base de Datos con duración de 20 horas, que se dará en 1986.

